

# 地質ニュース

昭和60年9月

第373号

1985

1985年長野市地附山地すべり緊急調査報告	岡部賢二 高田康秀	6
レーダーで見た日本の地形・地質	山口靖文 山村洋文 長谷敏和	14
ネバダ州の金銀鉱床 —そのタイプとモデル—	浦辺徹郎	25
ライマンとナウマン 百年史の一こま (3)	佐藤博之	38
東南アフリカ事情 (2) タンザニアの鉱物資源	高橋清	50
地学と切手	P. Q.	66
海外室だより	海外室	67
大阪西南部 ŌSAKA-SEINAMBU	藤田和夫 前田保夫	68

目 録 レーダーで見た日本の地形・地質

山口靖文  
山村洋文  
長谷敏和

## 編集 地質調査所

発行 株式会社 実業公報社

### 表紙の写真

#### 長野県上松の地附山地すべり

表紙は 1985年7月27日午前8時40分頃に撮影された斜め写真である。画面中央上の崖は 北東—東西方向にほぼ直線状の滑落崖で その落差は 50-60mに達する。地すべりは 円弧地すべりと考えられ 画面のほぼ中央の木の多い部分は 円弧地すべりの末端に形成された隆起部の一部である。湯谷団地や老人ホームの被害の多くは 直接この地すべりによって受けたのではなく 主に 円弧地すべりによって生じた隆起部の脚部から流下したいくつかの舌状の流れ(舌状流)によって破壊されたと考えられる。湯谷団地北側(画面右下)の被害は 円弧地すべりの右側方からの直接の舌状流と末端隆起部からの舌状流によるものである。湯谷団地南(画面中央下)にはまさに舌状に末端隆起部から土石が流下しているが これは小規模の舌状流の集合したものである。老人ホーム松寿荘は 同様に末端隆起部からの舌状流で押し潰された(画面左中央 灰紫色の屋根)。舌状流の先端には 下流方向に凸に湾曲したしわがみられる。  
(文: 曾屋龍典 写真提供: 中日本航空)

### 10月号予定目次

チベット—ヒマラヤ衝突帯の花崗岩類

明治26年吾妻山殉難記

百年史の一こま(4)

地球化学図と人為環境汚染の評価

1984-85: 米国滞在雑感

—テクトニクス研究の現状など—

中国再訪

全国の空中磁気図